

## 令和5年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「海外大学に一番近い府立高校」として、校訓である「自主自律」「和親協力」のマインドを持ち、グローバルな視点で、高い志をはぐくみ、主体的に生きようとする「人生の物語を編める生徒」を育てる、生徒・教職員がともにチャレンジする学校

- (1) 幅広い知識と教養を身につけ、高い志で自らの将来を切り拓く力
- (2) グローバルな視野で、異なる文化・価値観を持った人々を理解し、協働する力
- (3) 現代の諸課題に向き合い、協働で最適解を求め、自ら考え、判断し、行動する力
- (4) 「自主自律」「和親協力」の心をはぐくみ、他者や身近な社会・世界のために、自らの強みを主体的に発揮し、社会的貢献ができる力

## 2 中期的目標

1 確かな学力と高い志をはぐくみ、すべての生徒の第一志望進路の実現を図る

- (1) グローバル科・普通科併設校の特色及び実績を活かして、生徒の学習意欲の更なる向上を図り、確かな学力を育成する。
  - ア 学校での学びと家庭学習を効果的に結びつけ、高校生として必要な基礎学力の定着をはかる。
  - イ 総合的な探究の時間を中心に学習活動全般で、社会人として通用する基礎的・汎用的能力の土台作りを行う。
  - ウ 1人1台端末の導入に向けてICTを活用した取組みを組織的に推進する。
  - エ 生徒の学習指導評価（学校教育自己診断・設問7～11）における肯定的評価を令和7年度には93%以上とする。(R1:79%,R2:85%,R3:88%,R4:88%)
  - オ 3年間を見通した学習指導及び進路指導計画を活用する。
- (2) 「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を重視した授業改善に取り組むとともに、希望する進路を切り拓く学力を育成する。
  - ア 生徒による授業アンケート結果等の活用。授業の「めあて」の提示・「生徒の学習活動」・「振り返り」を全教科で実践し、AL型・PBL型・TBL型の授業力向上を図る。
  - イ 学力生活実態調査・基礎学力調査等を分析・活用し、生徒の希望する進路実現に相応しい学力養成に努める。
  - ウ 国公立大学への進学実績を伸ばす。国公立大学合格者をR7年度には82名以上とする。(R1:58名,R2:55名,R3:63名,R4:29名)
  - エ 海外大学進学説明会・海外進学交流会をより充実させ、国内外の関係機関との連携を深めて海外大学への進学をめざす生徒を支援する。
  - オ 進路・学習状況を保護者に適切に提供する。
    - ※ 3年生4月当初の希望する進路の実現達成率をR7年度には87%以上にする。(R3:52%,R4:44%) [R3新規]
    - ※ 海外大学合格者数をR7年度には10名以上とする。(R1:3名,R2:9名,R3:4名,R4は7月末に確定)
- (3) 魅力づくりと効果的な情報発信で、生徒・保護者に信頼され、地域中学生に憧れられる学校をめざす。
  - ア 学校説明会・見学会の積極的実施及び本校ホームページを活用した最新の学校情報の発信に努める。
  - イ 地域と連携した事業の展開を図り、地域とともに成長する学校をめざす。
    - ※ HP更新回数の100回以上の継続及び学校教育自己診断保護者における「教育情報の提供」の「肯定的評価」をR7年度には94%以上とする。(R2:86%,R3:62%,R4:88%)
    - HPのアクセス数をR7年度には200,000以上とする。(R1:8,190,R2:16,546,R3:110,274,R4:191,767)

2 あらゆる教育活動で「21世紀型スキル」発現の機会をつくり、生徒の主体性・資質・能力を育成する

- (1) 学校における教育活動のあらゆる場面で、生徒の言語活動の充実を図る。
  - ア 4技能を英語授業に毎時間組み込んだ授業展開と更なる英語教育の充実を図り、卓越した英語力をはぐくむ。  
「骨太の英語力養成事業」の成果を踏まえ、バランス良い4技能の修得、英語でのプレゼンテーションやディベートを中心に英語教育の更なる深化を図る。
  - イ CEFRを外部評価基準とし、英語学力調査をグローバル科及び普通科全体で継続し学力を伸ばさせる。
    - ※ R7年度にはグローバル科2年生のCEFR B1以上:72%以上、B2以上:14%以上とする。(R2:B1 30%/B2 3%,R3:B1 62%/B2 6%,R4:B181%/B2 0%)
    - R7年度には普通科2年生のCEFR A2以上:100%、B1以上:37%以上とする。(R2:A2 97%/B1 7%,R3:A2 67%/B1 27%,R4:A296%/B133%)
- (2)教科教育・教科外教育活動のあらゆる場面で、デザイン思考ができる生徒を育成する。
  - ア 「総合的な探究の時間」において、協働で探究のプロセスを繰り返し設定することで、生徒一人ひとりがSDGsの視点も踏まえ、課題に関連し自己の在り方生き方を真剣に考える学習活動を展開し、各教科等で身に付けた資質・能力等を活用し、主体的・対話的で深い学びの実現につなげる。「探究学習」の成果を広く全国に発信する。
  - イ ロジカルシンキング・クリティカルシンキングを学び、そのスキルを習得できるよう「総合的な探究の時間」を中心に実践を広げ、通常授業へ順次導入していく。
  - ウ 海外研修や修学旅行についても、事前事後学習も含む全過程を通じてデザイン思考成果発表へとつなげる。
  - エ 「3つのポリシー」「関連単元配列表」を有効活用し、更なるカリキュラムマネジメントの充実と新教育課程編成をめざし、教科の枠を超えた学びを実践する。
- (3) 多様性への理解・共感力をはぐくむ。
  - ア 大阪大学・立命館大学いばらきキャンパス他の留学生との交流会を企画・立案・実施し、異なる文化・価値観への共感力と英語コミュニケーション能力の向上を図る。
  - イ 夏期海外研修、海外大学説明会・交流会、SDGs東南アジアスタディツアーなどで英語教育や国際化教育の機会を充実させる。

3 「自主自律」「和親協力」の心をはぐくみ、豊かな人間性を涵養する学校づくり

- (1) 教育相談、保健教育、人権教育をさらに推進し、安全で安心な学びに向かう環境づくりを推進・充実させる。
    - ア 教員とSCの協力のもと、全教職員で教育相談を充実させ、生徒が相談しやすい環境づくりを促進する。
    - イ いじめを根絶すべき重要課題と認識し、未然防止、早期発見、組織的対応に取り組む。
    - ウ 災害や事故に備えてマニュアル整備や情報提供システムを整備し、実行性のある自然災害等に備えた体制を確立する。
    - エ 食物アレルギー対応委員会を中心に、校内研修等を通じて、食物アレルギー等に係る事故防止に努める。
    - オ 総ての教育活動で人権に関する学びを深めるとともに、保護者にも学校の取組みを周知するよう努める。
      - ※ 学校教育自己診断における「教育相談」(生徒)の「肯定的評価」をR7年度には77%以上とする。(R1:65%,R2:64%,R3:68%,R4:72%)、「いじめ対応」(生徒)の「肯定的評価」をR7年度には94%以上とする。(R1:83%,R2:85%,R3:89%,R4:89%)、「災害時の情報提供」(生徒)の「肯定的評価」をR7年度には72%以上とする。(R1:57%,R2:64%,R3:56%,R4:60%)
  - (2)生徒主体の部活動・行事の運営と学習との両立を進める。
    - ア 基礎的な生活習慣の定着を進める。イ 生徒会を中心とした、自主的な活動を推進する。
    - ウ 「大阪府部活動の在り方に関する方針」に沿い、生徒の自主活動や部活動と教職員の働き方とのより良いバランスを実現する。
      - ※ 学校教育自己診断における「生徒会を中心とした自主的な活動が活発である」(生徒)の「肯定的評価」をR7年度には94%以上とする。(R1:81%,R2:81%,R3:91%,R4:90%)
  - (3)地域との連携を推進し様々な機会を通じて情報発信と協働を行う。
    - ア 生徒会や部活動を中心に地域のイベント、清掃活動、ボランティア活動等に参加し、地域への協力を進める。
    - イ HP等の電子媒体、リーフレット等の紙媒体及び学校説明会等広報活動を通じて、情報発信の更なる充実と本校への理解の向上を図る。
      - ※ 本校学校説明会・見学会のべ参加者をR7年度には3600名以上とする。(R1:2237名,R2:1900名,R3:3156名,R4:3148名)
- 4 教職員の資質向上と学校の組織力向上に向けた取組み
- (1) 教科会議・研修の充実・相互授業見学の充実・経験年数の少ない教員研修の充実、個々の教職員の経験年数や適性に応じた役割分担による学校組織力の向上を図る。
  - (2) 「働き方改革」を推進し、教職員の安全及び健康の確保、職場環境の改善を図る。
    - ※ ストレスチェックによる「健康総合リスク」の値を、府立学校平均以下を継続する。(R1:94,R2:92,R3:88,R4:91)

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 5 年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><b>令和5年度学校教育自己診断の結果と分析</b></p> <p>例年と同時期の12月にフォーム作成ツールで実施。質問数は31項目。 生徒927人、保護者603人、教職員43人から回答を得た。</p> <p>(全体としてのまとめ) 前年度と比較して、肯定的評価がupした項目数とdownした項目数は、次のとおりである。 1年生は前年度1年生との比較、2・3年生および教員は経年推移としている。</p> <p>【生徒】up/down(カッコ内は前年のもの) 1年:15/16(9/21) 2年:14/17(9/21) 3年:25/6(10/20) 【保護者】 1年:7/23(28/7) 2年:14/17(26/4) 3年:19/11(19/11) 【教員】 16/13(13/17)</p> <p>生徒の肯定的評価が高くなった一方で、保護者・教員の肯定的評価は前年より低いものとなった。特に、学校から保護者への情報発信に課題があると考えられる。</p> <p>(生徒による評価) 1年生で肯定的評価が大きく上がった項目は、「14. 先生方は、いろいろな問題を見逃さずに対応してくれる(83.1%)」「16. 先生方は、生徒の意見を聞いてくれる(89.7%)」とあることから、生徒と担任団を中心として教員の関係性が良好であることが分かる。しかし、その一方で「20. 担任の先生以外にも保健室や相談室等で、相談することができる先生方がいる(67.0%)」ということから、担任外の先生との関わりの場を増やす工夫が必要である。</p> <p>2年生で肯定的評価が大きく上がった項目は、「11. 授業でわからないことについて、先生に質問しやすい。(89.0%)」「3. 箕面高校は、1人1台端末を効果的に活用している。(87.3%)」であった。他の学習指導に関する項目も増加傾向にあったことから、本校での学習活動・内容が浸透し、理解を得られていることが分かる。その一方で生徒指導に関する肯定的評価が微減となり、学校生活への慣れが気のゆるみにつながり、指導される機会が1年時より増えた生徒が一定数いるものと考えられる。また、人権に関する項目が大きく減少したのは、2年生の人権講演会が3学期に設定されているため、生徒も肯定的評価をつけることができなかつたためと考えられる。</p> <p>3年生は2年時に比べて肯定的評価が大幅に増えている。箕面高校での学びも3年めとなり、行事での活躍や進路決定に向けて級友・保護者・先生と共に活動し、情報を共有することが増え、前向きに学校生活をとらえることができているものと考えられる。肯定的評価が下がった項目は「9. 授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。(90.6%)」「27. 英語教育が充実している(88.5%)」「31. 箕面高校は、1人1台端末を効果的に活用している。(76.6%)」は教育課程により演習科目が増え、機会が減少したことが考えられる。また、「28. 国際交流等に関する取り組みが充実している。(88.5%)」については、国際交流に関するプログラムが1・2年生を中心としたものであることから3年生自身にその機会がないことが影響している。</p> <p>(保護者による評価) 全学年共通として、「29. 箕面高校の授業参観や学校行事を見学したり、参加をしたことがある。」の肯定的評価が昨年度の70%から</p>	<p><b>令和5年度第1回 学校運営協議会より (令和5年7月14日(金)実施)</b></p> <p>(1) 保護者からの意見書提出状況 ○ 前回の協議会以降、保護者からの意見書提出はなかったことを報告させて頂く。</p> <p>(2) 令和6年度使用教科用図書の選定状況 ○ 適正に選定されていることを報告させて頂く。 ☆ 意見・質問等 特記事項なし</p> <p>(3) 令和4年度 進路実績 ○ 関連資料を説明 共通テストの出願率の前年度と比較して低下した。この理由は、コロナ過においては緊急時に備えての出願が多かったが、昨年度は落ち着いたもので、例年通りの数字であると言える。国立大学は全て関西以外の大学であった。やりたいことを追及して地方の大学も視野に入れての結果と捉えている。浪人していた57期生は、かなり健闘したと言える。私立大学の入試実績は例年通りと言える。海外大学に関しては、8名が色々な国に進学した。うち1名は医学部に進学した。 ☆ 意見・質問等 ・教育系大学・学部への志願者は減っているのか？ ⇒減っている。 ・5教科プラス学校行事、クラブを全面的にやるのが箕面高校の良さであると言える。</p> <p>(4) 令和5年度学校経営計画 ○ 令和4年度の第3回学校運営協議会でご覧いただいたものと概ね同じである。 遅刻者総数を大幅に減らすことに鋭意取り組んでいる。 また、教員の働き方改革に関しても、校務の見直しや校務のマニュアル化など地道に取り組んでいきたい。 ☆ 意見・質問等 ・校務のマニュアル化に関して教員の反応はいかがか。 ⇒なぜ必要なのかも含めて、丁寧に説明している。これを契機に校務の見直しにも着手しつつある。 ・遅刻に関して生徒会の取り組みは何かあるのか。子どもが持つ力は大きいので突破口になり得るのでは。 ⇒代にもよるが、遅刻防止週間に教員と協力し、声かけ運動を展開したりしている。今年は月曜日だけ校長の横に立って手伝ってくれている。 ・勤務先の働き方改革実現のために、マニュアル化は参考にさせて頂きたい。 ・遅刻が多いなど生活態度に改善の余地がある生徒は、往々にして自分が望む進路を実現できないという傾向が見られる。</p> <p>(5) スクールミッション ○ 設置者案に加筆修正したものを提示するので、ここで承認頂きたい。 ☆ 意見・質問等 ・普通科の生徒の中にも海外大学進学希望者はいるのか。 ⇒当然ながら一定数存在する。またグローバル科の生徒も海外大学だけではなく、国内大学に進学することを希望している。その辺りも勘案して、スクールミッションに「も」と言う言葉を入れた次第である。我々としては、国内大学も海外大学もどちらも大事にしていることの現れである。</p> <p>【承認の可否】全会一致で承認された</p> <p>(6) その他 夏休みに近隣の中学校(16校)を校長が回る予定である。⇒実施済。 この後約10分間で、委員の森氏より昨年度の大学入試を振り返って頂いた。</p> <p><b>令和5年度第2回 学校運営協議会より (令和5年11月17日(金)実施)</b></p> <p>(1) 保護者からの意見書提出状況 ○ 前回の協議会以降、保護者からの意見書提出はなかったことを報告させて頂く。</p> <p>(2) 授業参観実施 ○ 数学1名 — ICTを活用しつつ“問い”に工夫を凝らした授業 ○ 化学1名 — オードックスではあるが、豊富な知識に裏付けされた安心感のある</p>

85.4%と大幅に増加した。新型コロナウイルス感染症による活動制限が撤廃されたことによるものであり、多くの保護者の方に学校に来ていただく機会を持つことができた。今後もさらに多くの保護者の方に学校に来ていただけるよう、工夫していきたい。

生徒との回答に開きがあったのは、「7. 子どもは、授業はわかりやすいと言っている。」の項目で、生徒の「7. 授業はわかりやすく楽しい。」の肯定的評価が 77.8%であったのに対し、保護者の肯定的評価が 54.7%であった。「わからない」が 16.3%「授業」と一口に言っても多くの科目があり、その分析は非常に難しいが、保護者の方からの叱咤激励と受け止め、さらなる授業改善に励みたい。また、「31. 箕面高校は、1人1台端末を効果的に活用している。」では生徒の肯定的評価は 84.1%、教職員は 79.1%に対して、保護者は 63.3%にとどまった。「わからない」が 23.7%授業での活用は増えているが、自学での利用頻度が少なく保護者の方の目に触れる機会が少ないのかもしれない。

次に、肯定的評価が昨年度より低下した項目として、「21. 箕面高校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば、対応してくれる。(83.7%→33.8%)」「27. 箕面高校は、地震や火災などの場合、どのような行動を取れば良いか、情報提供を行っている。(65.3%→37.5%)」「28. 箕面高校の PTA 活動は積極的に行われている。(78.1%→52.7%)」などがあげられる。これは選択肢5の「わからない」を選んだ方が 63.7%、44.9%、40.3%と多くなっていることが一因として挙げられる。また、全体を通して情報発信に関する項目での肯定的評価が低かったことから、本校からの情報発信の現状には大きな課題がある。

学校からの連絡は現在、メールを中心としているが、「26. 箕面高校のホームページを見ている。(64.5%)」と多くの保護者の方に見ただけであることから、保護者の皆さまへの連絡手段の一つとしてホームページの有効活用を検討する。

また、アイデアやご意見も多く寄せられた。具体的には、半日授業の多さ、生活態度への指導、教室内におけるガバナンス、学習サポートのための補講の必要性などである。これらの点についても十分留意していきたい。

ここからは各学年の分析を行う。1年生保護者は、全体的な傾向としては昨年度の1年生保護者と同じような傾向で評価をしていたが、総じて肯定的評価が下がった。入学時に対面にて多くの情報提供を行っているが、その後も継続的な情報提供の必要がある。

特に、進路指導に関する項目は 10 ポイントの減と大きく下がっており、「分からない」という回答も多かった。生徒向けには発信しているものの、保護者の方に向けて進路指導をどのように発信していくかという面にはまだまだ課題がある。

2年生保護者での肯定的評価上がった項目は「13. 箕面高校では、生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている。(67.0%→73.3%)」であった。本校での指導に対して保護者の方のご理解と協力を得られているものと推察できる。

一方、その他の生徒指導、学習指導、進路指導については、1年生と同様の傾向がみられた。

3年生保護者は、3年生生徒と同様の傾向がみられ、肯定的評価のupが多い結果となった。学習指導、生徒指導はほとんど肯定的評価がupした。特に大きく上がった項目としては、「7. 子どもは、授業はわかりやすいと言っている。(56.2%→63.4%)」「18. 子どもの心身の健康について、気軽に先生に相談できる。(54.2%→61.4%)」があげられる。学校での様子が生徒を通じて保護者に伝わっていることが垣間見え、保護者の方からの相談に教員が適切に対応できていることが分かる。今後も丁寧な情報共有を続けていき、保護者との関係性をより良好なものにしていきたい。

(教職員による評価)

肯定的評価が大きくupした項目は、「18. 生徒一人ひとりが興味・関心、適正に応じて進路選択できるよう、きめ細かい指導を行っている。(64.7%→83.7%)」「31. 1人1台端末を効果的に活用している。(64.7%→79.1%)」「9. 各教科において、教材の精選・工夫を行っている。(88.2%→100%)」であった。進路指導においてはHRや個人面談等を通じて丁寧に対応している。また、教材やICTの活用など授業改善に努

授業

- 総合探究1名 — 企業との連携:協力会社の前でプレゼンテーションを実施
- ☆ 意見・質問等
- ・数学:図形をプロジェクターで映し出してそこに書き込んでいく方法をとっていたのが良かった。
- ・化学:スピードが非常に速く驚いた。
- ・総合探究:取り組みに変化はあるのか?  
→キャリア教育を重視しているので、アカデミックなものというよりは実学志向で動いている。

(3) 令和6年度使用教科用図書の最終選定報告

- 選定理由書のとおり、適正に選定されたことを報告させて頂く。
- ☆ 意見・質問等 特記事項なし

(4) 令和5年度学校経営計画 —進捗状況—

- 担任と副担任の協働 — まずはその趣旨の浸透を図っている。教員のマインドセットと具体的中身の構築を来年度の課題とする。

- 校務マニュアル — 先生方の協力で概ね完成した。今後も随時ブラッシュアップしていく所存。

- 分掌再編 — ICT グループを教務部内に創設予定。

- 教科等横断的取組 — まずは学習指導室にて鋭意取り組んでいる。来年度以降形にしていく予定。

- 時間外勤務 — 今年は平均時間が過去3年間で一番少なく、総量は確実に減少している。部活動の問題や、業務の平準化などが課題である。

- ☆ 意見・質問等
- ・校務マニュアル作成は素晴らしい。
- ・教科等横断は昔から言われているが難しい課題である。
- ・ICT グループを教務部内に設置する案は良い。

(5) その他 特記事項なし

令和5年度第3回 学校運営協議会より (令和6年2月9日(金)実施)

(1) 保護者からの意見書提出状況

- 前回の協議会以降、保護者からの意見書提出はなかったことを報告。
- ☆ 意見・質問等 特記事項なし

(2) 令和5年度学校教育自己診断結果報告

- 情報発信がうまく機能しているのか?そもそもHPが情報発信にふさわしいのか、などが気になる点であるので、情報発信の方法を見直す所存である。
- 生徒と保護者の回答に乖離がある点も散見された
- 安全教育に関わる数値が低かったため、改善に取り組む所存  
—安否確認トライアルを教員対象に2月末に実施

- ☆ 意見・質問等 特記事項なし

(3) 令和5年度学校経営計画に係る学校評価

- 資料3を説明 — 重点課題は順調に執り行われている。この度、第3回の協議会で自己評価を提示することとする。
- ☆ 意見・質問等 本協議会にて承認される。

(4) 令和6年度学校経営計画

- 令和5年度学校経営計画をベースに、特に教職員に関わる部分で追記した。
  - ・教科等横断の一層の推進
  - ・教職員の意識改革
  - ・総合的探究の時間の深化
  - ・ICT 機器の一層の活用

めている。一方、「28. 教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている。(100%→88.4%)」については、周知の課題は保護者の結果との共通項として浮かび上がるものであり、喫緊の課題であるとする。また、「20. 教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる。(100%→93.0%)」については、担任と生徒の関係性がしっかりできている反面、業務平準化という観点では偏りが発生してしまう側面もあるので、副担任を含めた学年団の教員が生徒と関わる機会を設けることも必要だと考える。

☆ 意見・質問等

・内容を十分ご理解いただき、本協議会にて承認される。その後の教育庁との協議を経て変更があることも了解取得。

(5) その他

○ 私立高校授業料無償化の影響についての意見交換が行われた。

府立箕面高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
<p>1 確かな学力と高い志をはぐくみ、すべての生徒の第一志望進路の実現を図る</p>	<p>(1) 生徒の学習意欲の向上、確かな学力の育成 ア 学習習慣の定着。  イ 基礎的・汎用的能力の育成。 ウ 1人1台端末の活用  エ 授業満足度の向上。  オ 3年間を見通した学習指導及び進路指導計画の活用。  (2) 授業改善及び希望する進路を切り拓く学力の育成。 ア 授業アンケート結果等の活用。授業改善。  イ 希望する進路実現に相応しい学力の養成。 ウ 国公立大学への進学実績の伸長。  エ 海外大学進学をめざす生徒支援。 オ 保護者との連携  (3) 魅力づくり・効果的な情報発信 ア 学校説明会・見学会、学校情報発信の充実。  イ 地域と連携した事業の展開、地域とともに成長する学校づくり。</p>	<p>(1) ア・学習指導室を中心に、外部講師による TBL 型授業の研修を行うことで授業実践を進め、一日の宿題量を調整することで家庭学習の定着をはかる。  イ・生徒へ自学自習の必要性を理解させ、その徹底を図る。  ウ・授業・家庭学習に1人1台端末を効果的に取り入れ、生徒の学びの深化を図る。  エ・学習指導室を中心に、授業アンケート(7,12月)の課題把握と成果検証、授業見学における管理職の教員へのフィードバックを更に充実し、授業改善に結びつける。  オ・3年間を見通した学習指導及び進路指導計画を活用する。  (2) ア・授業アンケート結果等を参考に、自己・教科の振り返りを行い、授業改善に努める。 ・学習指導室を中心に、箕高授業スタイル(本時の「めあて」の提示・生徒の学習活動・振り返り・自学)に基づく授業デザインを全教科で実践し、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業改善を推進する。 イ・先進校視察、外部講師による講習会の参加、校内外の優れた実践事例の研修等を通じ、指導法を研究し、共有する。 ウ・地方国立大学等の情報を生徒・保護者に発信する。  エ・海外大学進学説明会をより充実させ、国内外の関係機関との連携を深め海外大学への進学をめざす生徒を支援する。  オ・進路・学習状況を保護者に適切に提供する。  (3) ア・ホームページによる組織的な情報発信及び地域や教育産業等を通じた学校説明会を実施するなど、情報発信を丁寧かつ継続的に行う。  イ・探究の時間において、地域企業とのコラボレーションを推進、また地元の中学校への出前授業等を実施する。</p>	<p>(1) ア・第1・2学年で実施している学力生活実態調査による平均家庭学習時間を、2年生 平日1時間45分・休日2時間15分、1年生 平日1時間30分・休日2時間30分とする。[1時間2分・1時間40分/55分・1時間33分]  イ・上記アと同様。  ウ・「箕面高校は、1人1台端末を効果的に活用している」(生徒・保護者)の肯定的評価をそれぞれ80%/80%とする。[70%/69%]  エ・生徒の学習指導評価(学校教育自己診断・設問7~11)における肯定的評価を92%以上とする。[88%]  オ・「将来の進路や生き方について考える機会がある。」「進路に関して丁寧に指導をしてくれる。」(生徒)の肯定的評価96%/92%以上 [91%/88%]。  (2) ア・授業満足度82%以上 [74%]。  イ・希望する進路の実現達成率80%以上 [44%]  ウ・国公立大学合格者を65名以上とする [29名] ・国公立大学理系学部のリボ見学を2回以上実施する。[0回]  エ・海外大学進学希望者対象説明会を年間6回以上開催の継続、海外大学交流会2回は府立学校への公開実施 [6回・2回] ・海外大学進学者数を5名以上とする【7月末に確定】 オ・自己診断(保護者)「進路指導面、学校は家庭への連絡や意思疎通を、きめ細かく行っている」「学習の内容や進捗等を懇談や通信などによって知ることができる」の肯定的評価68%/65%以上とする。[65%/63%]  (3) ア・HP更新回数200回以上の継続。地域や教育産業を通じた学校説明会の16回以上実施を継続する [304回/21回] ・自己診断「ホームページを見ている」(保護者/生徒)の「肯定的評価」72%/56%以上 [62%/46%]  イ・出前授業については年度内に2校以上実現する。[新規]</p>	<p>(1) ア・2年生 平日1時間・休日1時間35分 1年生 平日44分 休日1時間11分であり、目標に達していない。ほとんどのケースで令和4年度を下回った。抜本的な指導、対策が急務。(△)  イ・上記アと同様。  ウ・生徒84%、保護者63%で、生徒の活用増加感覚が保護者と共有されていない。(△)  エ・当該5項目の平均肯定的評価率は89%で、昨年を上回ったが、目標には未達。「授業は分かり易く楽しい」という項目が3学年とも78%と低い。(△) オ・それぞれ94%/89%で、昨年を上回った。(△)  (2) ア・授業満足度78%(△) 箕高授業スタイルの全教員への徹底を図る。  イ・50%  ウ・国公立大学合格者は44名。(現役:32、既卒12) ・リボ見学は実現せず。  エ・それぞれ6回・2回実施。(○) ・海外大学進学者数は8名。(◎)  オ・それぞれ54%/53%と昨年度よりも低い評価となっており、教職員への共有と対策を実施する。(△)  (3) ア・HP更新回数は197回。 学校説明会8回に加え、校長による中学校訪問17校実施。(○) ・自己診断「HPを見ている」保護者65%/生徒41%と、生徒は昨年よりもダウン。(△)  イ・出前授業は現時点で3校実施。(◎)</p>
<p>2 あらゆる教育活動で「21世紀型スキル」発現の機会をつくり、生徒の主体性・資質・能力を育成する</p>	<p>(1) 生徒の言語活動の充実を図る。 アイ 卓越した英語力をはぐくむ。  (2) デザイン思考ができる生徒の育成。 ア 「探究学習」を主体的・対話的で深い学びの実現につなげる。 イ 「探究学習」の思考法の授業への導入。  ウ 海外研修や修学旅行の取組みでデザイン思考をはぐくむ。 エ 教科の枠を超えた学びの創造・実践。  (3) 多様性への理解・共感力をはぐくむ。 ア 異なる文化・価値観への共感力の向上。  イ 英語教育や国際化教育の機会の充実。</p>	<p>(1) ア・広がる英語教育推進プロジェクトと教科内相互授業見学による研鑽より4技能教授スキルと授業プロセス改善に取り組む。MINOH ENGLISH VILLAGEを継続する。 イ・国際グループを中心に、統合的な英語評価(CEFR)を行い、その現状分析と課題の把握を継続し、今後の方向性と課題解決策の策定作業を英語科とともに取り組む。  (2) クリエイティブな環境でデザイン思考を育成するプロジェクトを実施する。 ア・SDGsの視点も踏まえた「総合的な探究の時間(Link)」の充実。フィールドワーク、大学生・院生等のTAも活用する。  イエ・グラデーションポリシーを踏まえたカリキュラムポリシーの策定、外部リソースの有効活用で、更なるカリキュラムマネジメント・社会に開かれた教育課程の実現及び観点別学習状況の評価の充実をめざし、教科の枠を超えた学びを創造し実践する。 ウ・海外研修や修学旅行の目的・企画・実施については、学校経営計画を踏まえた取組みとする。  (3) ア・大阪大学・立命館大学いばらきキャンパス他の留学生との交流会を企画・立案・実施し、異なる文化・価値観への共感力と英語コミュニケーション能力の向上を図る。 ・本校海外大学卒業生による進路講演会を行う。 イ・夏期海外研修、海外大学説明会・交流会、SDGs 東南アジアスタディツアーなどで英語教育や国際化教育の機会を充実させる。</p>	<p>(1) アイ・グローバル科2年生のCEFR B1以上:67%以上/B2以上:12%以上とする [81%/0%]。普通科2年生のCEFR B1以上:35%以上とする [33%] ・海外大学進学者は、TOEFLiBT72以上、IELTS5.5以上をめざす。  (2) ア・「総合的な探究の時間(Link)」の公開発表会を年5回以上実施する [5回]  イエ・先進校視察、学識経験者による研修を通じて、「総合的な探究の時間」、教科における「探究的学習」とその形成的評価、教科の枠を超えた学びについての知見・実践力を向上させるための研修6回以上 [5回]  ウ・海外研修については事前研修を充実させ、実施後の成果発表を文化祭で行い、学校全体や社会に開かれた活動とする。  (3) ア・留学生との交流会・キャンパスツアーを実施。自己診断「国際交流の取組みが充実」(生徒)肯定的評価を92%とする。[89%]  イ・R5年度はオセアニア方面海外研修(夏)、東南アジア方面SDGsスタディツアー(春)を実施予定。自己診断「英語教育が充実している」(生徒)、「他の学校にない特色がある」(生徒)の肯定的評価をそれぞれ95%/95%とする。[93%/90%]</p>	<p>(1) アイ・グローバル科2年生のCEFR B1以上:79%/B2以上:2%・普通科2年生のCEFR B1以上:32%。 海外大学進学者はTOEFLiBT 72以上、IELTS5.5以上を取得済み。(○)  (2) ア・8回実施。(◎)  イ・エ・高校・大学の視察を通じた研修は2回、学識経験者による研修は6回、合計8回の研修を実施。(◎)  ウ・事前研修を充実させ、また実施後の成果発表は文化祭以外に別途機会を設けて実施した。(○)  (3) ア・88%とほぼ昨年並み。(△)  イ・それぞれ90%/93%。英語教育の枠入れが急務で、若手・中堅主体のプロジェクトチームで検討開始。(△)</p>

## 府立箕面高等学校

<p>3</p> <p>「自主自律」「和親協力」の心をはぐくみ、豊かな人間性を涵養する学校づくり</p>	<p>(1) 安全で安心な学びに向かう環境づくりの推進。</p> <p>ア 生徒が相談しやすい環境づくりの促進。</p> <p>イ いじめの未然防止、早期発見、組織的対応。</p> <p>ウ 実行性のある危機管理体制の確立。</p> <p>エ 食物アレルギー等に係る事故防止。</p> <p>オ 人権教育の深化とその取組みの周知。</p> <p>(2) 生徒主体の部活動・行事の運営と学習との両立。</p> <p>ア 生活習慣の定着。</p> <p>イ 自主的な活動の推進。</p> <p>ウ 教職員の働き方改革をふまえた生徒の自主活動や部活動の実現。</p>	<p>(1) 3年間の人権教育推進計画に基づき、講演・研修を通して生徒・教職員の人権意識・行動変容を高める。</p> <p>ア・教員と SC の協力のもと、全教職員で教育相談を充実させ、生徒が相談しやすい環境づくりを促進する。</p> <p>イ・いじめを根絶すべき最重要課題と認識し、未然防止、早期発見、早期発見に組織的に取り組む。</p> <p>ウ・実効性のあるマニュアルとなるよう点検・見直しを行い、自然災害等に備えた体制の確立を図る。</p> <p>エ・食物アレルギーの事故は、いつ、どこでも起きるものと想定し、すべての教職員が緊急時に対応できるよう、校内研修等の充実を図る。</p> <p>オ・総ての教育活動で人権に関する学びを深めるとともに、保護者にも学校の取組みを周知するよう努める。</p> <p>(2)</p> <p>ア・生徒の生活習慣の改善を図るために、日々の授業等を通じて継続的に指導を行う。</p> <p>イウ・「大阪府部活動の在り方に関する方針」に沿い、学習と部活のバランス及び教員の働き方と生徒の活動のバランスをとりながら成果をあげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボトムアップ方式を導入し、生徒自治の確立に努める。教職員の意識改革も行い、「大阪府部活動の在り方に関する方針」の徹底を図り働き方改革に努める。</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア・学校独自の SC 相談を 10 回確保するとともに、定期的な相談室開放(教育相談支援委員が担当)について更なる周知に努め、自己診断「教育相談」(生徒)の「肯定的評価」75%以上 [72%]。</p> <p>イ・自己診断「いじめ対応」(生徒)の「肯定的評価」92%以上 [89%]。</p> <p>ウ・自己診断「災害時の情報提供」(生徒)の「肯定的評価」67%以上 [60%]。</p> <p>エ・食物アレルギー対応委員会を中心に、校内研修を年 2 回実施し、食物アレルギー等に係る事故防止に努める。[2 回]</p> <p>オ・自己診断「命の大切さや社会のルール等について学ぶ機会がある」(生徒)、「人権について学ぶ機会がある」(生徒)の肯定的評価をそれぞれ 86%/93%とする。[80%/86%]</p> <p>(2)</p> <p>ア・遅刻者数 4500 名以下をめざす [6,783 名]</p> <p>イウ・自己診断(生徒)の「生徒会を中心とした自主的な活動が発達している」の「肯定的評価」94%以上。[90%]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己診断「生徒会活動の活性化に工夫」(教員)の「肯定的評価」93%以上 [91%]</li> <li>・時間外在校等時間全教員平均 30 時間以下 [約 35 時間]</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア・学校独自の SC 相談は 10 回確保。生徒の肯定的評価は昨年同値の 72%。(△)</p> <p>イ・91%と昨年を上回る。(△)</p> <p>ウ・59%とほぼ昨年並みの数字。(△) 見える形で具体的に示す必要あり。</p> <p>エ・既に 2 回実施。(○)</p> <p>オ・昨年同値の 80%/86%。(△) 教職員の意識変革も必要。</p> <p>(2)</p> <p>ア・令和 5 年度総計 5,789 名。(△)</p> <p>イウ・生徒会活動に関わる生徒の肯定的評価は 93%。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の評価は 93%。(○)</li> <li>・時間外在校等時間全教員平均は令和 5 年度は 27.8 時間に減少。(◎)</li> </ul>
<p>4</p> <p>教職員の資質向上と学校の組織力向上に向けた取り組み</p>	<p>(1) 教科会議・相互授業見学の充実・経験年数の少ない教員研修の充実、学校組織力の向上。</p> <p>(2)「働き方改革」の推進。</p>	<p>(1) 教科会議を授業力向上及び生徒の希望する進路実現のための研修の場として位置付けるとともに、積極的に研究授業を行うことで、教科としての授業力向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマを立てた相互授業見学や外部の教員研修・講習会に参加する等、教員の授業力向上を図る。</li> <li>・個々の教職員の経験年数や適性に応じた役割分担を行うことで、チーム箕面・オール箕面で学校運営を推進する。</li> </ul> <p>(2)安全衛生委員会と連携し、教職員の安全及び健康の保持、ならびに快適な職場環境の整備・促進に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の業務改善を図り、生徒と向き合える時間を確保する。</li> </ul>	<p>(1)自己診断「各教科において、指導方法の工夫・改善に努めている」(教員)の「肯定的評価」94%以上 [91%]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教科で研究授業年 1 回以上を維持 [1 回]</li> <li>・相互授業見学教員一人当たり平均 3 回以上 [3 回]</li> <li>・自己診断「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。」肯定的評価 84%以上 [78%]</li> </ul> <p>(2)ストレスチェックによる「健康総合リスク」の値を、府立学校平均以下を継続する [91]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己診断「気軽に相談しあえる人間関係ができてきている」(教員)の「肯定的評価」85%以上 [83%]</li> <li>・自己診断「先生方は、生徒の意見を聞いてくれる」(生徒)の「肯定的評価」85%以上 [82%]</li> </ul>	<p>(1)自己診断(教員)の「学習指導」の項目(8-12)の肯定的評価の平均は 93%。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教科での実施は叶わぬが、いくつかの教科で実施(△)。</li> <li>・平均 3 回以上の相互授業見学実施済み。(○)</li> <li>・肯定的意見 81%。(△)</li> </ul> <p>(2) ストレスチェック結果は府立学校平均以下ではあるが、96 に上昇。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気軽に相談しあえる人間関係ができてきている、肯定的意見は 91%。(◎)</li> <li>・先生方は生徒の意見を聴く、肯定的意見は 85%。(○)</li> </ul>